

問

藤野格昭

ソニアの債務は本町だけで負担するようにみえるが、越知、佐川町の考えは。
林業組織の立ち上げ

林業組織のメリットは

答 活性化に期待



答

大石町長

は、ソニア問題を、うやむやにし幕を引くのではないかとの声も聞く。
町外より通勤する役場職員は多い。
就労の場が佐川にあれば、転出するのは時間の問題ではないか。
この組織を立ち上げるにあたり、本町へのメリットは。

問

藤野

新しい林産業者が増えるが、町内に作れば、業者も潤うし活性化にもつながるのでは。

答

町長

国の森林・林業再生プランでは、今後は集約しないと支援が出来ない状況になっている。
この組織を起爆剤として、林業を中心に地域の活性化につなげたい。

問

藤野

林業組織の計画は。

答

片岡副町長

計画書によると、町内から年間2万㎡位の原木を伐り出し、製材する他、共同販売により、有利に販売する計画をしている。

問

藤野

基幹産業は町内で幅広く考えては。

答

副町長

町内の林産業者、事業者であれば参加でき、公益性も高く自由に脱退出来る。

撤去では

答 多額の費用

問

藤野

戸崎橋は撤去しないのか。

答

町長

撤去に多額の費用がかかるため、利便性を考えるため、塗装工事を行った。

問

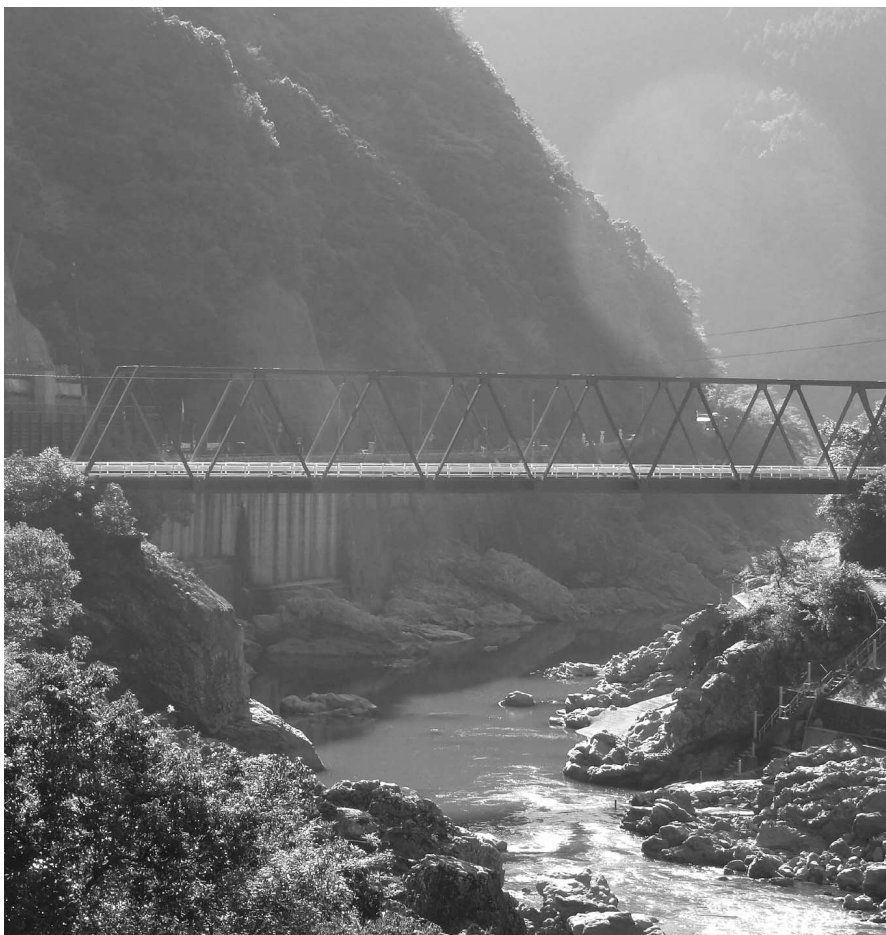
藤野

撤去の費用は。

答

町長

2千万位。



塗り替えられた戸崎橋

問

西森久雄

本町の保安林は、何時山崩れが起きてもおかしくない程整備されているが、国や県が一反当り50%の間伐、30万円の補助金を。

保安林補助金は

答 ① ヘクタール当り20万円

答

大石町長

農林水産大臣または知事が保安林の指定をし管理しているが、現在6千9百鈔位の保安林がある。搬出間伐すれば鈔当り20万円程度の補助もある。

まとまった面積で、採択要件が合えば、県営の治山事業で整備が図れるが、一定の規制がかかる。反面、税制の優遇措置もあるが、許可の手続きや、作業道の整備等、県と相談し取り組む。

問

西森

保安林の危険箇所や、土砂崩れなどの手続きの窓口を町ができないか。

答

町長

間伐などは県も考えている。作業道の開設などの手続きも、町の方に連絡があれば支援をしていきたい。

保安林（長者地区）



岩屋川





ソニアは

答 努力をしてきた

15億7千790万円を投資したソニアが破綻した。これまでの経過などと、特に行政の立ち上げた会社であり、公平、公正な整理と責任の所在を町民

問

山口

昨年8月31日に代表取締役就任、本年8月24日付で取締役を辞任した。1年間ソニア再生などに関して、努力をしてきたが、結論を見出すまでに至らなかった。主な要因は、同社の施設の譲り受けを計画している。また、事業協同組合を町として支援したい。

答

大石町長

(株)ソニアの出資比率の65%を有する筆頭株主であり、森林行政にも大変詳しい町長の手で解決すべきと思うが、取締役辞任の理由は。

問

山口芳正

株主からの追加出資もあり得ず、会社が債務超過になって破産状態になっても、公的資金での負担は許されない。設立予定の事業組合への財政支援は、ソニアの有形資産の買取りであり、清算のために公的資金を投入するものではない。

ソニアは平成5年12月に設立され、10年には資本金が15億7千790万円に達し、全国的にも注目を浴び、設立当初は林産事業であった。15年に製材施設が完成し運営を開始したが、運営が順調でなく多額の赤字決算となった。更に、乾燥施設などの設備投資を行い経営改善に努めたが、結果的に赤字が膨張し流動資金の枯渇を招いた。

答

町長

に説明を。今回、本町のみで再度資金を投入すると、地方自治の根幹である公共性、公益性が町外での事業展開に適用できるか。

問

山口

破産処理に総務省指針では、議会説明、住民報告会や公平性、透明性確保の観点から、会社更生法、民事再生法、特別調定法などの法的整理の選択を求めているが。

答

町長

倒産状態からの再起を目指す場合は、一定の法律に基づいた手続きがあるが、ソニアの今の状況では、通常精算を目指し取り組む。



田村・二葉町との交流会

二葉町との交流は

答 前向きに検討

問

山口

高知市二葉町と田村地区の交流会が6月5日に実施されているが、町の取り組みは。

答

町長

今回の交流は、にほんブログ村
自然素材等活用研究会がBスタイルプロジェクトの取り組みとして行ったもので、町に相談はなかった。

二葉町は自主防災活動の中で、地震時に一時的避難場所を探しており、公共施設の活用など相談

議長一口メモ！

(株)ソニアが休業という現在の状況に陥った最大の要因は、役員の無責任な放漫経営により、

運転資金が枯渇したためであり、ソニアの総資産から負債を引いた総資産は、五億五千万で、会社

は健全そのものである。

出資している三町により、再三協議を行ったが、林業にかける熱意に温度差があり、合意に至らず、ソニアの再生は夢となった。

資産を競売することも選択肢ではあったが、大手企業が地元の林業家を圧迫する懸念や町内に新

があれば前向きに検討したい。
日頃からの交流によ

り、農産物の販売、観光交流、耕作放棄地対策など取り組みが考えられ、

うまく行けば町の活性化にもつながると思い、交流を深めたい。

窓口は企画課を考えている。



大引割り (別枝地区)

たな設備を設置すると、三億円は必要とのことであり、町としても厳しい判断を迫られた。

そのうち佐川町と越知町は、ソニアの負債を仁淀川町が責任を持つなら「ソニアの全権利を渡す」との結論に至ったようである。

全員協議会で経緯を説

明し、全議員の考えを聞いた結果、九対三で執行部に一任するとの結論に達した。

ソニアの資産を引き受ける仁淀川町の関係者が、ソニアの役員を退くのは、当然であり、またソニアの役員を務めていた者が、引き受ける側に居てはならないことも当

然である。

何故、大石町長がソニアの役員を辞任したのか、また何故、新たな組織(仁淀川林産組合)に補助金を交付したのか、町民の皆様、ご理解いただけましたでしょうか。

補助金の額は、

交付金 七千万円
貸付金 八千万円

となっておりますが、林産組合が自由に使えるお金は、ほとんど無いように思えます。

林業組合には仁淀川町の林業発展のために、頑張っていた大きく、心よりお応援しております。

若藤 敏久